

# ほ び かいづかはくつ 平成 22 年保美貝塚発掘調査の概要

田原市教育委員会

## 保美貝塚の概要

保美貝塚は、日本でも有名な縄文時代晩期(2300～3000年前)の貝塚です。田原市保美町平城地内に所在し、福江湾に注ぐ免々田川の西側の台地上に位置しています。これまでに、A・B・Cの3地点の貝塚が確認されています。

明治36年に大野雲外によって調査され、はじめて学会に紹介されました。大正11年、昭和16年・38年・40年・41年・51年、平成21年に発掘調査が行われています。埋葬された人骨は30体以上が確認され、縄文時代の土器・骨角器・石器・土偶・動物の骨・貝が見つかっています。弥生・古墳時代の遺物も豊富です。

## 調査の経緯

調査は、民間の開発事業に伴い民間の開発業者から委託を受けた調査組織(株)二友組)が田原市教育委員会の指導のもと、6月25日から9月初めまで実施しています。調査面積は約300m<sup>2</sup>です。

## 調査の概要

発掘調査地点は、3地点からなる貝塚のひとつ、C貝塚の北東の隣接地にあたります。ここは昭和40年に愛知県教育委員会が2箇所のトレンチ調査を行った場所です。ここでは貝層の堆積がなく、A・B・Cの貝塚に囲まれた場所です。耕作により、遺物を含む地層はもとより台地の基盤(地山)の大半まで壊されていました。しかし基盤に掘り込まれた穴などは良好に残っていました。

## 遺 構

1号人骨・・90c×65c大きさの穴に体を深く折り曲げた屈葬と呼ばれる姿勢で埋められています。保存状態が悪く腐った木のような状態でしたが、足(大腿骨、腓骨、脛骨、右足根骨)、腰(寛骨)、右手(尺骨、橈骨、上腕骨)、右肩(肩甲骨)、肋骨、頭骨の一部が確認できました。

性別は不明ですが、骨はきゃしゃでした。また、骨の成長、歯のすり減り具合からやや年がいった大人であることがわかりました。残った脛骨の長さから、推定身長、140cmの後半くらいの縄文人であることがわかりました。この身長は、平均的な縄文女性の大きさです。男性は158cm位が平均です。

頭は北東を向け、足は体の右方向にひざを強く折り曲げ、右手は肩のあたりに添えられます。左手は、右の腰の辺りにそえられ葬られたようです。

土器棺墓・・バケツの底をすぼめたような形の土器(粗製の深鉢)を70×80cmの穴に、口の部分を東に向けて埋められていました。土器をはずすと、ヒトの下あご、腕(左右尺骨・左橈骨)、歯などの骨が見られました。これらは明らかに成人のもので、また、土器の中には赤い色素がまかれていたようです。土器の下側の内面・外面にはおこげ(炭化物)がついていました。通常、このような棺には乳幼児が葬られます。この墓は、当時の地形を復元するとずいぶん深く掘られています。

円形に並ぶ木柱列・・穴の大きさが1m、深さ70cmの柱穴が9個、北東方向を開け、C字状に並んでいます。遺物は縄文時代晩期後半の、保美貝塚が最も栄えていた時期の土器や石器が多く見つかっています。中には柱の痕跡も見られ、径40cmの太さが確認できました。柱列の径は7.5mほどになります。

このような木柱列は高床式の建物、住居、トーテムポールのような記念物が考えられますが、定説にいたっていません。有名なものは石川県の真脇遺跡、チカモリ遺跡のもので、時代も似通っています。いずれにせよこのような巨大な柱を立てるためには、木の切り出しから、埋めるための穴の掘削、柱を立てるなど膨大な作業があり、多くの人携わる特殊なものであることは間違いありません。東海地方ではこのような木柱列の報告例はありませんので、この遺構の正確な時期を確認する必要があります。また、墓の場所と重なっていることも重要です。

溝がめぐる柱穴・・こちら、径80cmくらいの穴に40cmの柱痕が見つっています。穴の深さは木柱列ほど深くないですが、周囲に溝がめぐっています。石刀が見つっています。もうひとつからは土偶の足が見つっています。

その他・・子供の埋葬人骨1体、埋葬土坑とみられるもの(保存が悪く人骨か確認できない)1基、石刀が納められた穴などが見つっています。また縄文時代の土器、石器が入った穴が調査区内で多数見つっています。何の目的に掘られたかわかりませんが、南東にはなく、調査区の中心に多く見られます。中には深くまっすぐ、柱の痕跡もあるものもあります。

## 遺物

土器・・縄文時代晩期から弥生時代初めの土器が見つっていますが、特に晩期後半五貫森式土器が中心に見つっています

磨製石斧・・木を切り倒したり、加工するための道具です。刃は磨かれています。完形品が2点見つっています。

石棒類・・棒、刀状の石器で、マツリに使われた道具です。保美貝塚では今回の調査以外にも多く見つっています。

石鏃(石の矢じり)・・保美貝塚では、これまでに多くの石鏃が見つっています。そのため保美貝塚は石鏃を生産した遺跡ではないかという説明しなければ、奈良県(サヌカイト)、岐阜県(下呂石)、長野県(黒曜石)などの渥美半島にない石も使われています。

土偶・・足の一部分が見つかりました。

骨角器・・シカの指の骨で作られたヤス(魚を突き刺すためのもの)が貝と動物の骨が混ざった穴から見つかりました。その他調査区内からは、動物の骨が見つかりましたが、小さな破片のうえ、保存状態がよくないため、種や部位はわかりません。焼けた骨も多く見られます。

その他・・弥生時代後期の土器が穴から見つっていますが、量は少ないです。また、中世から近代に至るまでの陶器類も見つっていますが、ごくわずかです。

## 調査成果、出土品の整理から期待されること

渥美半島からは縄文人骨が多く見つかり、日本人の成り立ちを研究する重要な資料を提供しています。今回の調査で見つかった縄文時代の人骨、土器棺は、縄文時代晩期の社会における埋葬の方法に新しい例を加えました。土器棺は保存状態もよく、見つかった成人人骨もあわせて貴重な事例です。

特に注目に値するのは、円形に並んだ木柱列です。穴の形、埋められ方、遺物などを慎重に検討することによって作られた時期が判明することでしょう。その結果によっては心豊かに生活を送っていた保美貝塚の人々の姿が浮かび上がることでしょう。



調査区全景



土器棺墓



埋葬人骨(1号)



溝がめぐる柱穴



土偶の足



石刀



磨製石斧



石鏃

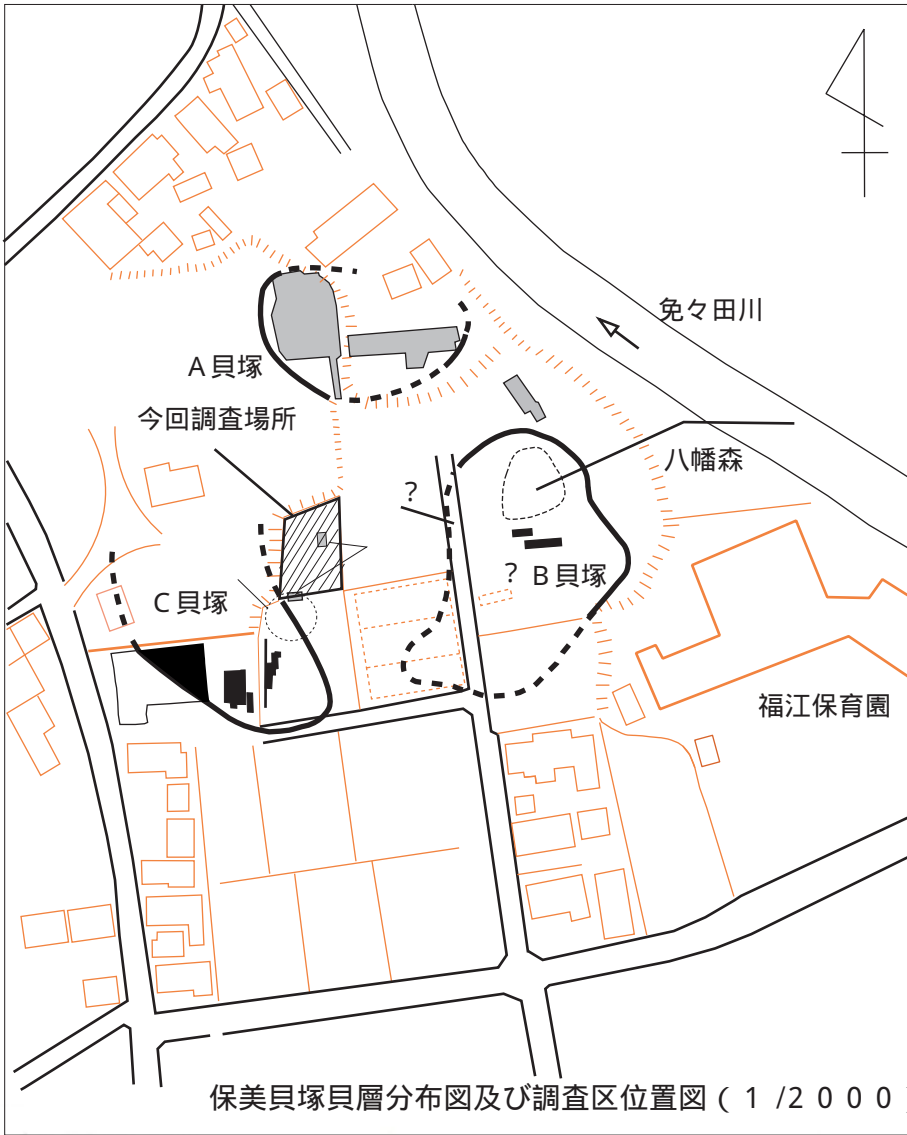


木柱列の穴から見つかった遺物



# 保美貝塚 主な調査歴

- T1年 小金井良精、大山柏、柴田常恵
- T14年 宮坂光次
- S16年 大山柏・柴田常恵・齊藤専吉
- S16年 東京大学人類学教室  
(長谷部言人・酒詰仲男)
- S25年 中山英司
- S39年 渥美町教育委員会
- S39年 渥美町教育委員会
- S40年 渥美町教育委員会  
盤状集骨墓等発見
- S4年 愛知県教育委員会 (南山大学)
- S5年 渥美町教育委員会
- S52年 小野田勝一
- H2年 株二友組



## 平成22年度調査平面図

本図は整理途中の参考図です。今後変更等がありますので、転載等をご遠慮ください。

